

○計画期間：平成31年4月～令和6年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点（令和4年3月31日時点）の中心市街地の概況

認定基本計画に基づき、平成31年4月から、『誰もが輝き、「真の豊かさ、あずましさ」を実感できる街 —黒石ならではの魅力を磨くまちづくり—』をコンセプトに、「新たな拠点の創出により価値を高めるまちづくり」、「こみせとともに人と人とが共鳴するまちづくり」、「誰もが安心して集い、憩うあずましの空間のあるまちづくり」の3つの基本方針を掲げ、各種事業に取り組んでいる。

計画3年目の令和3年度は、新たな拠点施設整備として、中心市街地の旧大型商業施設（旧大黒デパート）跡地の利活用を図るための「市民サービス施設整備事業」において、旧大型商業施設の解体工事が完了し、市民サービス施設の設計業務（令和4年度完成予定）に着手したほか、「市立図書館整備事業」の建設工事（令和4年度完成予定）に着手した。

民間事業の「中心市街地複合宿泊施設整備事業」により建設され、令和2年6月にフルオープンした「ホテル逢春」では、市及び中心市街地への来街者の宿泊機能を補完しているほか、新型コロナウイルス感染症経済対策として令和3年度に実施した「くろいし飲食券発行事業（黒石市主催）」及び「くろいしプレミアム付き商品券販売事業（黒石商工会議所主催）」では、各商品券の販売場所として、中心市街地に多くの人が集う拠点としての役割を担った。

また、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の地中化）」及び「街なみ環境整備事業（道路の美化等）」が令和2年度に完了し、文化・観光資源である「こみせ通り」を中心とした一体的な景観向上が図られたことを市内外にPRしたほか、「伝統的建造物群基盤強化事業」等を継続して実施したが、街なかで開催される主要なイベントについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全てのイベントの開催を中止することになった。

認定基本計画に掲載した事業による効果は、新規大型ハード事業が完了する計画後期（令和5年度）に現れることを想定しており、計画3年目終了時点において目立った変化は見られないが、目標値の一つである「中心市街地内への新規出店数（令和元年度から令和5年度までの5年間の合計数15件）」は令和3年度終了時点で16件となり、当該目標値を超える成果を得ることができており、中心市街地の賑わい創出と交流人口増加を推進するための下地が整いつつある。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が収束する見込みがたたず、中心市街地活性化事業の進捗に長く大きな影響を及ぼしているが、今後も、地域と行政が一体となって引き続き、全ての目標値の達成を目指して、新型コロナウイルス感染症対策と経済活動を両立させながら、中心市街地活性化事業に着実に取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度12月31日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和元年度 (1年目)	令和2年度 (2年目)	令和3年度 (3年目)	令和4年度 (4年目)	令和5年度 (5年目)
人口	2,120人	2,066人	2,000人	1,960人		
人口増減数	△56人	△54人	△66人	△40人		

自然増減数	△32 人	△23 人	△31 人	△34 人		
社会増減数	△24 人	△31 人	△35 人	△6 人		
転入者数	91 人	110 人	71 人	102 人		

(2) 地価

(単位：円)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)
中心市街地 商業地 (市ノ町)	20,200	20,100	20,000	19,900		
中心市街地 の近接商業 地 (山形町)	17,900	17,700	17,500	17,300		

2. 令和3年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和3年度の実績を見ると、3つの目標指標のうち「主要イベント入込数」と「歩行者通行量」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、まちなかで開催されるイベントがすべて中止となり基準値に達しなかった。

新型コロナウイルス感染症により各種行動が制限される中、身近な地域を楽しむことができる「マイクロツーリズム」が注目されたが、黒石は「こみせ」があり歩いて楽しめる「まち」である。今後のウィズコロナ時代に、住民や観光客に身近な「まち」をどのように楽しんでもらうか、主催者側も無理せず継続できる方法を官民連携で検討していくことが課題である。

もう一つの指標の「中心市街地内での新規出店数」は令和3年度までの累計で16件となり、目標値を超える成果を得ることができた。新規出店者の年齢層は20～40代の若い世代が増え、業種・業態も多様化し住民、観光客が楽しめる商業集積となる期待が高まっている。今後、地域全体で中心市街地の空き店舗、空き家を活用し新規出店に結びつけるような仕組みづくりを行い、新規出店者の事業継続、出店意欲の向上をサポートする必要がある。

計画3年目の令和3年度は、「市立図書館」の建設工事に着手したほか、旧大黒デパート解体工事が完了した。黒石市は、旧大黒デパート跡地に建設する「市民サービス施設」の基本設計・実施設計プランの募集の際、周辺エリアの一体的なプラン（黒石市まちなかエリアリノベーション）も併せて募集した。中心市街地をひとまとまりのエリアとして捉え市民や観光客が中心市街地を気持ちよく歩いて楽しめるという点で、回遊性向上が期待できるプランである。また、市立図書館、市民サービス施設が人の流れと交流を促進し中心市街地というエリア全体を再編する要素であるということが再確認できた。

こみせ通りの一部では、黒石市による電線類の地中化工事と道路の美装化工事が行われ、令和3年度から供用が開始された。「こみせ」の風景と石畳風の路側帯が約140m続き、一車線の通りに以前よりゆっくり車両が走っている。街並みを楽しみながら移動する歩行者の空間確保のため、中心市街地全体に同様の美装化を検討いただきたい。

令和3年8月に駅前の空き地に3つの商業施設がオープンした。今後、地域住民の生活や観光客の受け入れの要所である黒石駅前にも人の流れが期待できる。しかし黒石駅に隣接する商業施設の閉店・解体後の黒石駅前全体を、今後どのように活性化していくか引き続き大きな課題である。

将来の展望が見通しづらい情勢であるが、令和4～5年度に黒石市が取り組む当事業においても、商店街、観光施設、駐車場への回遊性や利便性が高いまちとなるよう動線を考慮した実施事業の検討を引き続きお願いしたい。

令和4年度は中心市街地にある商店街組織が主催する「屋台夜市」「夜店」「こみせまつり」「マッコ市」などのイベントが再開される予定なので、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で停滞した地域経済を盛り上げていくきっかけとなることを期待する。また、今後整備される市民サービス施設が、まちなかの活性化に十分に寄与されるよう市と情報交換、連携しながら尽力していきたい。

II. 目標ごとのフォローアップ効果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
魅力と活力ある商業環境づくり	新規出店数 (件)	10件 (H25~29の合計値)	15件 (R1~R5の合計値)	16件 (R1~3の合計値)	A	①	①
街なかのにぎわい創出	主要イベント入込数	169,764人 (H29)	183,500人 (R5)	0人 (R3)	C	1	1
街なかのにぎわい創出	歩行者通行量(人/日) (平日・休日の計)	3,974人 (H29)	4,300人 (R5)	3,100人 (R3)	C	1	1

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調）

②目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調）

1 目標達成が見込まれる（関連する事業等の進捗状況が順調でない）

2 目標達成が見込まれない（関連する事業等の進捗状況が順調でない）

2. 目標達成見通しの理由

<新規出店数（件）>

令和3年度は、5件（中心商店街空き店舗対策事業の交付決定件数1件、中心市街地複合宿泊施設整備事業の成果として4件）の新規出店があり、令和3年度末において累計16件となり、基準値（令和元年度から令和5年度までに総新規出店数15件）を超え、目標を達成した。

令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、中心商店街複合宿泊施設の開業効果や、中心商店街空き店舗対策事業や起業・創業支援事業等の事業を継続することで、目標値を超えることが可能と見込まれる。

<主要イベント入込数>

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、主要イベントがすべて中止となったため入込数は0人となり、令和2年度に引き続き、目標値183,500人を大きく下回った。

令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘客に努めることで、目標達成は可能と見込まれる。

<歩行者通行量（人/日）（平日・休日の計）>

令和3年度は、3,100人の歩行者通行量となり、昨年度より18人の減少、基準値より874人の減少となり、目標値4,300人を下回った。

主な要因としては、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自宅で過ごす方が増えたこと、また、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことが挙げられる。

令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、「中心商店街複合宿泊施設」、「市民サービス施設」、「市立図書館」、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の地中化）」、「街なみ環境整備事業（道路の美装化等）」、「伝統的建造物群基盤強化事業」等の効果の発現により、来街者の増加が期待できることから、目標達成は可能と見込まれる。

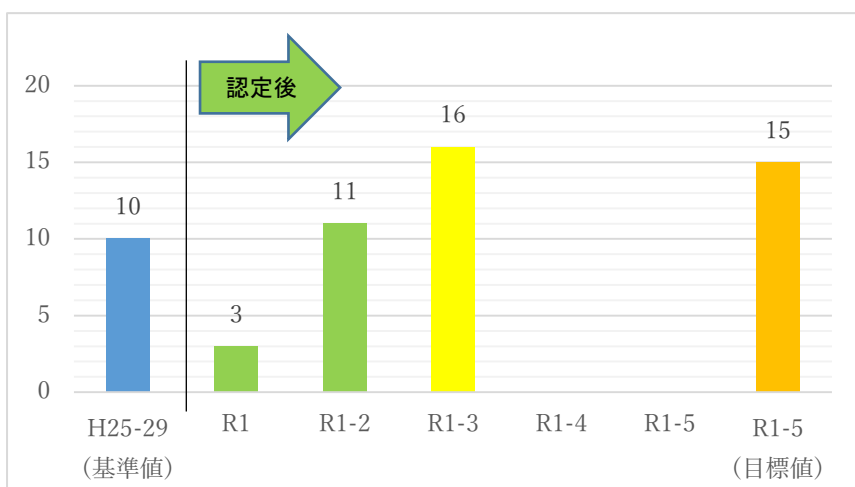
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

見通しに変更なし

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<新規出店数（件）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P74～P75 参照

●調査結果と分析



年	(件)
H25～H29	10
合計値	(基準年値)
R1	3
R1～2	11
R1～3	16
R1～4	
R1～5	
R1～R5	15
合計値	(目標値)

※調査方法：黒石市中心商店街空き店舗対策事業補助金の交付決定件数

中心市街地複合宿泊施設整備事業

新たな活性化事業等による効果

※調査月：令和4年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：中心市街地内での新規出店

<分析内容>

新規出店数（件）の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり実施し、5件が新規出店した。

「中心商店街空き店舗対策事業」では、令和3年度の新規出店（交付決定）は1件となったが、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続して行ったほか、出店後もインキュベーションマネージャー等による経営相談を行っていることが成果として現れたものと考えている。

また、「中心商店街空き店舗対策事業」及び「創業・起業支援事業」並びに「弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業」の効果、民間事業である「中心市街地複合宿泊施設整備事業」の完了、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の地中化）」や「街なみ環境整備事業（道路の美化等）」による環境整備の完了による相乗効果もあり、民間事業者が主体となって、各事業の近接地（中町及び横町）に新規出店が4件あり、期待された以上の効果があった。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心商店街空き店舗対策事業（黒石市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	中心商店街の空き店舗を活用して出店する事業者等に対し、店舗改修費等の補助金を交付するほか、出店後の経営状況等のフォローアップを実施する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	<p>【事業目標値】 当事業及び「創業・起業支援事業」による新規出店数の目標値は、令和元年度から令和5年度までの5年間の総新規出店数10件（年2件）を見込んでいる。</p> <p>【最新値】 令和3年度は1件の新規出店（交付決定）があり、令和元年度から令和3年度までの総新規出店数（交付決定）が7件となり、目標値（5年間で10件）を達成できる見込みである。</p> <p>当事業及び「創業・起業支援事業」では、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続して行ったほか、出店後もインキュベーションマネージャー等による経営相談を行っていることが成果として現れたものと考えている。</p>
事業の今後について	「創業・起業支援事業」と併せて継続実施することで新規出店を促し、空き店舗の解消、商店街のにぎわい創出及び活性化につなげる。

②. 創業・起業支援事業（黒石市）

事業実施期間	平成30年度～【実施中】
事業概要	相談ルームの開設やセミナーの開催などにより、創業・起業希望者への支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	<p>【事業目標値】 当事業及び「中心商店街空き店舗対策事業」による新規出店数の目標値は、令和元年度から令和5年度までの5年間の総新規出店数10件（年2件）を見込んでいる。</p> <p>【最新値】 令和3年度は、創業セミナーを5回開催し、相談ルームを24回開催したほか、県内の創業・起業支援情報を周知した。</p> <p>当事業及び「中心商店街空き店舗対策事業」では、出店を後押しするために補助金支出を担保することを念頭において、出店希望者（事業者）と事前に、出店内容や資金計画の相談等を継続して行ったほか、出店後もインキュベーションマネージャー等による経営相談を行っていることが成果として現れたものと考えている。</p>
事業の今後について	「中心商店街空き店舗対策事業」と併せて継続実施することで創業・起業者をフォローアップし、事業の安定と発展を下支えする。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業（こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社）

事業実施期間	令和元年度 【事業完了】
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） （令和元年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業による新規出店数の目標値は、中心市街地複合宿泊施設整備の1件である。また、中心市街地複合宿泊施設整備後の歩行者通行量が令和5年度において140人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 当事業は、令和2年3月に補助事業が完了し、令和2年4月からのオープンを目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響もあり、令和2年5月にプレオープン、令和2年6月からの本格オープンとなった。
事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施することで、来街者の増加と滞留時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。

④. 弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業（不動産団体・金融機関・弘前圏域定住自立圏構成市町村・黒石市）

事業実施期間	平成30年度～令和3年度【実施中】
事業概要	弘前圏域で「空き家・空き地バンク」を運営することで中心市街地内においても空き家・空き地の利活用の促進を図り、活性化につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業及び「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」等の相乗効果による新規出店数の目標値は、令和元年度から令和5年度までの5年間の総新規出店数4件を見込んでいる。 【最新値】 令和3年度は、相乗効果として、中心市街地内の中町及び横町に新規出店が4件あった。（令和3年度実績5件の内数） また、令和2年度同様、黒石りんごまつりでのPRを予定していたが、イベントが中止になり未実施となったため、市内店舗でのPRポスターの掲示や市広報への掲載等周知を行い、利用促進に努めた。
事業の今後について	継続実施することで、遊休資産の活用機会を促し、居住者及び来街者の増加と新たな人の流れを生み出し、活性化につなげる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

計画期間中の総新規出店数は、「中心商店街空き店舗対策事業」、「創業・起業支援事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」、「弘前圏域空き家・空き地バンク連絡事業」の実施により、令和5年度には15件となることを見込んでいる。

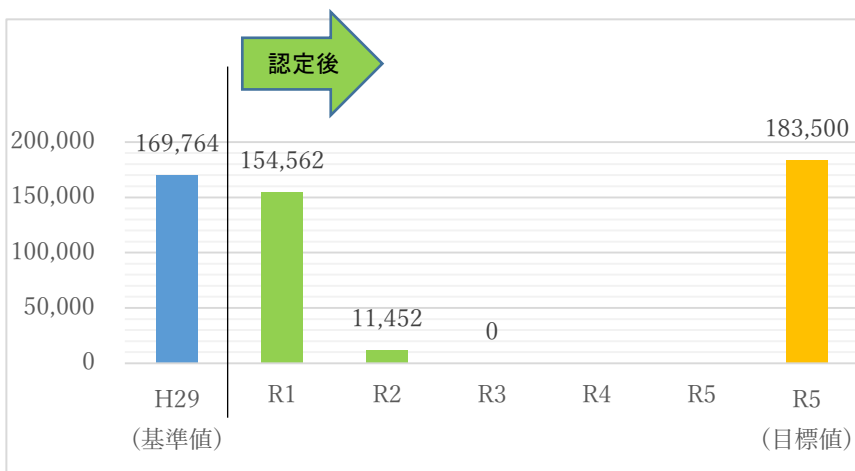
令和3年度は、5件（「中心商店街空き店舗対策事業」の交付決定件数1件、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」等の相乗効果として4件）の新規出店があり、令和元年度から令和3年度までの総新規出店数が16件となり、目標値（令和元年度から令和5年度までの総新規出店数が15件）を達成した。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、空き店舗に新規出店を希望する小売業者等に対して、当該事業による補助制度の活用と周知を図るほか、「起業・創業支援事業」により起業相談や経営相談等を一体的に進め、目標値をさらに上回る成果獲得に取り組む。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<主要イベント入込数> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P76～P79 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H29	169,764 (基準年値)
R1	154,562
R2	11,452
R3	0
R4	
R5	183,500 (目標値)

※調査方法：中心市街地内での主要イベント来場者数を集計

※調査月：令和4年3月

※調査主体：黒石市

※調査対象：黒石よされ、黒石ねぶた祭り、黒石こみせまつり、クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全て開催中止

<分析内容>

主要イベント入込数の増加に向けた各事業については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、調査対象とした事業のすべてがやむを得ず開催中止となったため、令和3年度実績は0人となったが、例年と異なる社会環境からの影響が非常に大きいため、例外的な成果と考えている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 街なかイベント支援事業（黒石市）

事業実施期間	昭和61年度～【実施中】
事業概要	「黒石よされ、黒石ねぶた祭り、黒石こみせまつり、黒石りんごまつり」等の主催者に対し、その費用の一部を補助するほか、人的支援等を行い、イベント内容を充実させ、にぎわいの創出と交流人口の拡大に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、基準値169,764人の10%を事業効果として、令和5年度において16,976人の入込増を見込んでいる。 【最新値】 令和3年度は、黒石よされ、黒石こみせまつりは中止となったが、黒石ねぶた絵の展示は行った。また、黒石りんごまつりは屋内での開催は控え

	たが、屋外でのりんご市は開催した。参加した事業者の売り上げは好調であった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念されるが、今できる精一杯の可能性を模索することで関係者の団結が高まり、新型コロナウイルス感染症が収束した後も継続して事業実施できる見込みである。

②. 街なか情報発信事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	商店街マップや情報誌、SNS、観光アプリ等で情報を発信し、市民及び観光客の街なかへの関心を高める。また、インバウンド対応のため、無料 Wi-Fi 設置の促進と、英語圏、主にオーストラリアをターゲットとした誘客を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	<p>【事業目標値】</p> <p>当事業による目標値は、基準値 169,764 人の 5%を事業効果として、令和 5 年度において 8,488 人の入込増を見込んでいる。</p> <p>【最新値】</p> <p>令和 3 年度は、国際交流員による日英表記での投稿や外国人目線での情報を SNS 等で情報発信したほか、中町こみせ通りにもう一箇所公衆無線 LAN を整備し、グーグルマップ等への施設情報の英語及び日本語での登録などツールに合わせた情報発信に努めた。</p> <p>また、公衆無線 LAN の環境整備に合わせ、東奥日報社企画「ジョシマル」と連携し、当市の観光コンテンツを体験するとともに、写真の撮り方講習会を 2 回開催し、撮影した写真を SNS 等で発信することで魅力を発信し、観光客の増加に繋げた。</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症が収束した後に即座に反転攻勢が出来るよう体制固めをするとともに日英での情報発信を更に強化し、主にオーストラリアをターゲットとした誘客促進を図る。

③. 黒石よされブラッシュアップ事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～【実施中】
事業概要	日本三大流し踊りの一つに数えられる黒石よされへの参加者増と知名度アップのため、浴衣の無料貸し出し・着付け、首都圏等で開催されるイベントへの参加、独自で県外イベントに参加する PR 団体に対し、経費の一部を補助することにより、観光誘客の推進と市内外の交流人口の拡大を図る。

国の支援措置名及び 支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和5年度）
事業目標値・最新値 及び推進状況	<p>【事業目標値】</p> <p>当事業による目標値は、基準年の黒石よされ入込数 80,200 人の 5%を事業効果として、令和5年度において 4,010 人の入込増を見込んでいる。</p> <p>【最新値】</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、黒石よされは開催中止となった。</p>
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら実施することで、市外からの観光客誘客拡大を図り、中心市街地のにぎわいの創出及び活性化につなげる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

計画期間中の主要イベント入込数は、「黒石よされ」、「黒石ねぶた祭り」、「黒石こみせまつり」、「クラシックカークラブ青森ミーティング in こみせ」の実施により、令和5年度には 183,500 人となることを見込んでいる。

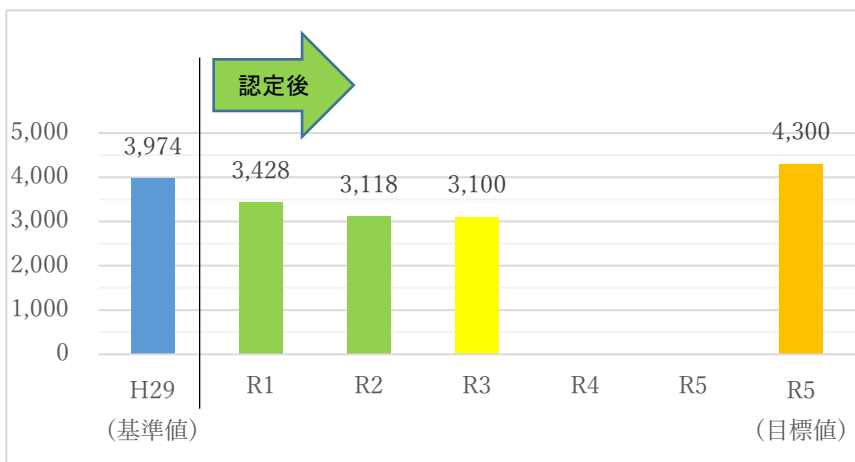
令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、調査対象とした事業のすべてがやむを得ず開催中止となったため、令和3年度実績は0人となった。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、街なかで開催される各種イベントの情報発信や人的及び金銭的支援等を継続し、官民一体となってイベントを盛り上げ観光客の誘客に努め、目標達成に取り組む。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

<歩行者通行量（平日・休日の計）> ※目標設定の考え方 認定基本計画 P80～P83 参照

●調査結果と分析



年	(人)
H29	3,974 (基準年値)
R1	3,428
R2	3,118
R3	3,100
R4	
R5	4,300 (目標値)

※調査方法：9月の平日及び休日（各1日）それぞれ、8時から17時45分まで目視で実測

※調査月：令和3年9月

※調査主体：黒石市、黒石商工会議所

※調査対象：中心市街地内の6調査地点（調査地点1：一番町【駅前】、調査地点2：上町、調査地点3：一番町【信金前】、調査地点4：横町、調査地点5：中町、調査地点6：市ノ町）における歩行者

※調査地点



(単位：人)

	平成 29 年度 (基準年)	令和元年度 (1 年目)	令和 2 年度 (2 年目)	令和 3 年度 (3 年目)	令和 4 年度 (4 年目)	令和 5 年度 (5 年目)
調査地点 1	1,252	1,080	844	852		
調査地点 2	438	292	268	338		
調査地点 3	442	540	512	294		
調査地点 4	416	372	342	446		
調査地点 5	864	650	760	642		
調査地点 6	562	494	392	528		
合計	3,974	3,428	3,118	3,100		

〈分析内容〉

歩行者通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり実施したが、令和 2 年度実績を 18 人下回る結果となった。

社会全体の問題として人口減少が着実に進んでいることが大きい、「松の湯交流館管理運営事業」及び「回遊バス運行事業」において、新型コロナウイルス感染症により事業実施回数や回遊バス乗車数が大幅に減少したため、市民等がまちなかを訪れる機会も減少したことが挙げられる。

また、指標に掲げる歩行者通行量増加分を収容する「市立図書館整備事業」及び「市民サービス施設整備事業」の拠点施設整備は、令和 4 年度以降に完了するため令和 3 年度末時点では、その効果を見込めないことが挙げられる。

なお、調査地点 2「上町」、4「横町」、5「中町こみせ通り」、6「市ノ町」の、中心市街地の中でも商店等が多く集まる上記 4 調査地点での歩行者通行量の合計が 1,954 人となり、令和 2 年度の上記 4 調査地点の合計 1,762 人より 192 人増加しているが、中心市街地における重要なハード整備となる「中心市街地複合宿泊施設整備」、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の地中化）」及び「街なみ環境整備事業（道路の美装化等）」の完了により、まちなかを訪れる人が増え、期待された効果が少しずつ現れていると考えている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 市立図書館整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	黒石公民館駐車場に、新たに市立図書館を建設し、様々な世代の憩いの場として活用する。これまで当市になかった図書館を建設することで、図書館を利用する様々な世代の来街者を増やし、回遊を生み出し、にぎわいの創出に寄与するための事業である。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（国土交通省） (令和 2 年度～令和 4 年度)
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、市立図書館整備後の歩行者通行量が令和 5 年度において 85 人/日の増加を見込んでいる。

	<p>【最新値】</p> <p>令和 3 年度は、本体工事、電気設備工事及び機械設備工事を行い、途中、既存駐車場の解体作業中に出土した地中障害物の撤去等により、令和 4 年 5 月まで工期を延長することになったが、当初の予定通り、令和 4 年度のオープンに向けた準備を行った。</p>
事業の今後について	令和 4 年度のオープンを目指す。

②. 市民サービス施設整備事業（黒石市）

事業実施期間	令和元年度～令和 5 年度【実施中】
事業概要	旧大黒デパート建物を解体し、市役所窓口業務等を含む市民サービス関連機能や交流拠点機能などを含む複合施設、広場を整備し、中心市街地の新たな人の流れを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集集中支援事業（国土交通省） （令和 2 年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	<p>【事業目標値】</p> <p>当事業による目標値は、市民サービス施設整備後の歩行者通行量が令和 5 年度において 156 人/日の増加を見込んでいる。</p> <p>【最新値】</p> <p>令和 3 年度は、旧大黒デパートの解体工事及び PCB 廃棄物の処分を完了したほか、（仮称）市民サービス施設の基本設計を完了した。</p>
事業の今後について	令和 4 年度中に（仮称）市民サービス施設の実施設計を完了させるとともに、社会情勢を注視しながら、当該施設の建設工事及び工事監理業務委託を発注し、令和 5 年度のオープンを目指す。

③. 中心市街地複合宿泊施設整備事業（再掲）（こみせ通り商店街振興組合、逢春株式会社）

事業実施期間	令和元年度 【事業完了】
事業概要	横町に宿泊施設、多目的ホール及び、売店等を整備し、市民や観光客が交流・滞在する場を創出する。街なか観光の振興、商店街の賑わいの創出により中心市街地の活性化を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業（中小企業庁） （令和元年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	<p>【事業目標値】</p> <p>当事業による目標値は、中心市街地複合宿泊施設整備後の歩行者通行量が令和 5 年度において 140 人/日の増加を見込んでいる。</p> <p>【最新値】</p> <p>令和 2 年 3 月に補助事業が完了し、令和 2 年 4 月からのオープンを目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響もあり、令和 2 年 5 月にプレオープン、令和 2 年 6 月からの本格オープンとなった。</p>

事業の今後について	宿泊施設の稼働、また情報発信と商店街と連携したソフト事業も継続実施することで、来街者の増加と滞留時間の延伸を図り、こみせ通り及び横町の活性化を推進する。
-----------	--

④. 前町野添線電線共同溝整備事業（黒石市、電線管理者）

事業実施期間	平成 23 年度～令和 2 年度【事業完了】
事業概要	本路線は、「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている地区内にあり、伝統的な「こみせ」の保存・修景整備とともに、こみせ通りとしての一体的な景観の向上を図る必要のある重要な路線である。 当事業は、縦横に張りめぐらされた電線類を地中化することにより、こみせ通りの観光資源としての価値を高めることで、観光客を増やし、にぎわいを創出させるため必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	令和元年度 社会資本整備総合交付金（道路事業） 令和 2 年度 無電柱化推進計画事業
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」の効果と併せて、歩行者通行量が令和 5 年度において 130 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 認定基本計画に掲載された事業は、令和 2 年度で完了した。
事業の今後について	令和 4 年度から、松の湯交流館の交差点北側 L=100m の区間において、無電柱化の整備を行う。

⑤. 街なみ環境整備事業（黒石市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和 9 年度【実施中】
事業概要	「こみせ」などの伝統的な景観の保全・形成並びに、街なかを回遊できる歩行者ネットワーク構築にあたり、道路の美装化、景観の復元を行うなど、歴史的風致の維持・向上を図る整備が必要である。また、ユニバーサルデザインも取り入れ、魅力ある歩行者空間の確保を図るものである。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」の効果と併せて、歩行者通行量が令和 5 年度において 130 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 令和 3 年度は、外観修景助成（黒石市歴史的景観形成事業費補助金）の募集を令和 3 年 6 月 1 日から開始し、3 件の交付決定があった。
事業の今後について	令和 4 年度以降も、引き続き外観修景助成を実施し、環境整備（快適な

	歩行者空間の確保、生活環境の向上、回遊性の向上)を進め、賑わいの創出及び活性化につなげる。
--	---

⑥. 松の湯交流館管理運営事業（黒石市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	重要伝統的建造物群保存地区に存在する松の湯交流館をコミュニティ及び観光・まち歩きの拠点として活用することで、中心市街地の賑わいの創出と交流人口の増加を図るうえで必要な事業である。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （令和元年度～令和 5 年度）
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業による目標値は、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」の効果と併せて、歩行者通行量が令和 5 年度において 130 人/日の増加を見込んでいる。 【最新値】 令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、自主事業が年間 69 回の実施となり、延べ 306 人の参加となった。感染対策を講じながらの多種多様な自主事業を展開した。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら実施することで、観光の拠点、交流の拠点として最新の情報をわかりやすく発信し、多種多様な事業を展開することにより、中心市街地のにぎわいの創出及び活性化につなげる。

⑦. 回遊バス運行事業（黒石市）

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	回遊バスを継続して運行し、中心市街地への効率的なバス路線の検討・見直しを図る。また、バス停や待合所の多言語化のほか、店舗の前へバス停を設置するなどの取り組みを行い、中心市街地の商業環境の向上、街なか観光の振興、来街者の利便性の向上、街なか居住の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び推進状況	【事業目標値】 当事業では、回遊バスの利便性を高めることで、中心市街地内の回遊性を高め、歩行者通行量の増加を見込んでいる。 【最新値】 令和 3 年度は、令和 2 年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により乗車人数が例年より大幅に減少した。また、令和元年度に策定した黒石市地域公共交通網形成計画に基づく再編実施の方向性について、庁内で検討した。

事業の今後について

継続実施することで、中心市街地を訪れるための交通環境の維持・向上を図るほか、乗客の利用環境の改善に努め、活性化につなげる。

●目標達成の見通し及び今後の対策

計画期間中の歩行者通行量は、「市立図書館整備事業」、「市民サービス施設整備事業」、「中心市街地複合宿泊施設整備事業」、「前町野添線電線共同溝整備事業」、「街なみ環境整備事業」、「松の湯交流館管理運営事業」、「回遊バス運行事業」の実施により、令和5年度には4,300人となることを見込んでいる。

令和3年度は、3,100人の歩行者通行量となり、昨年度より18人の減少、基準値より874人の減少となり、目標値4,300人を下回った。

主な要因としては、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により自宅で過ごす方が増えたこと、また、認定基本計画に掲載した事業の直接的な効果がまだ現れていないことが挙げられる。

令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況によるが、「中心商店街複合宿泊施設整備事業」、「市民サービス施設整備事業」、「市立図書館整備事業」、「前町野添線電線共同溝整備事業（電線類の地中化）」、「街なみ環境整備事業（道路の美装化等）」、「伝統的建造物群基盤強化事業」等の効果の発現により、来街者の増加が期待できることから、目標達成は可能と見込まれる。